

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解 I		（ NKT13J ）
講義名（コード）	異文化理解 I A		（ NKT13JA ）
対象学科	グローバルビジネス学科/国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル化が進む社会の中で、グローバルな環境で働く際に必要となる異文化理解力を深め、国際人としてふさわしい人材になる事を目指す。人前で国の発表を繰り返し行う事でプレゼンテーションスキルが身につく。
全体の内容と概要	世界の国の文化や歴史を学び、自国のものと比べ違いを理解する。グループワーク、ディスカッション、発表などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持つ。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解することができる。	自己紹介、色のイメージ
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解することができる。	文化とは何か、文化による差異を理解する。
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶ事ができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる。	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す。
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う。
7	イメージと固定観念について理解することができる。	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する。
8	ステレオタイプについて理解することができる。	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う。
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する。
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える。
11	世界各地の価値観について理解することができる①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解することができる②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す。
13	前期のまとめ	まとめプリント
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	